



平気で生きて居る事

110号
 仏歴2554(2011・平成23)年
 3月14日発行
 呉市中央7-7-13
 西教寺蔵本通支坊
 TEL 0823 (21) 2798
 FAX 0823 (21) 2795
 www.saikyoji.net
 郵便振替番号
 01340-3-29117
 宗教法人西教寺



いよいよ

いよいよ、今年(2011年)四月より、ご本山(京都西本願寺)で、親鸞聖人の七五〇回会の大法要がとまります。西教寺からも9月13日〜15日、安芸南組(近隣六ヶ寺)として本山に団体参拝します。みなさん、ごいつしよにお参りい

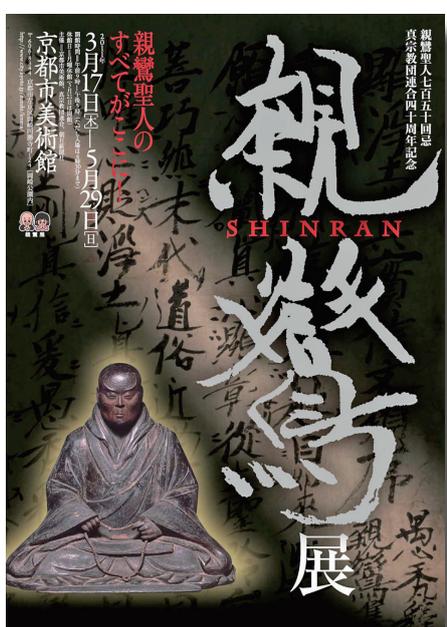
たしましょう。

その他、京都では、「親鸞展―生涯とゆかりの名主―」(3月17日〜5月29日・於京都市美術館)も開催されます。先般、広島県立美術館で催された「本願寺展」は、西本願寺の宝物だけですが、

今回の「親鸞展」は、本願寺派以外の宝物も展示されます。皆さんお馴染みの「お正信偈」が書かれている「教行証文類」(親鸞聖人の御真筆・国宝)や「弥陀成仏のこのかたは」でお馴染みの「三帖和讃」(国宝)等

岩崎智寧(新就職)

一堂に展示されず。また今年、法然房源空聖人の八〇〇回会にもあたり、「法然―生涯と美術―」(3月26日〜5月8日・於京都国立博物館)も開催されます。縁の整う方はぜひどうぞ。



平気で生きて居る事

話は変わりますが、昨年暮れ、NHKドラマ「坂の上の雲」(原作||司馬遼太郎)を見ました。ドラマ中、正岡子規が結核で死んでゆくのですが、床ずれに悲鳴を上げ、血を吐き、悶絶号泣し、徐々に衰弱して、最後は消え入るように亡くなつてゆく姿が描かれています。子規の遺した『病床六尺』には、次のようにあ

ります。悟りといふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つて居たのは間違ひで、悟りといふ事は如何なる場合にも平気で生きて居る事であつた

居ること、すなわち、どんな場合でも最後までしっかりと生きてゆくことのできる姿勢、「生きる姿勢」であつたと気づいたのでしよう。以前、死のうとした経験をお持ちの方が、「私は死ぬことは怖くありません。それよりも、私にとっては生きてゆく事が怖いのです」と話して下さいました。

死ぬということは、死ぬ瞬間だけの話だと思つてしまいがちですが、ドラマで描かれたように、それは死に至るまでの肉体的苦痛や精神的煩悶を生き続けることでもあるのです。それがいかに大変なことか『病床六尺』は教えてくれます。そのような経験からでしょう、子規は、悟り(仏教)とは、「平気で死ぬる事」、つまり「死ぬ瞬間のためだけの覚悟」ではなく、「如何なる場合にも平気で生きて

生きるって難しいですね。親鸞さまも激動の時代嵐の中を生き抜かれ、どう生きて良いか分からない私たちに、人生の羅針盤を伝えて下さいました。